

## 市民交流施設

### 施設概要

#### ◇ふれあいセンター

市民福祉の増進や地域住民の健全な育成・生涯学習の推進を図る施設として整備され、施設の貸館、地区コミュニティ活動、社会教育活動の支援等をしています。

#### ◇アクトビレッジおの

環境教育と市民交流の拠点施設として整備され、環境教育・スポーツ・レクリエーションの3つを基本機能としています。

#### 令和2年4月1日現在の施設概要

施設名称	地区	建築年度	築年数	構造	耐震化		延床面積 (㎡)	運営	防災 施設
					診断	改修			
東岐波ふれあいセンター	東岐波	昭和54年度	40年	R C	済	不要	985.82	直	該当
西岐波ふれあいセンター	西岐波	昭和52年度	42年	R C	済	不要	956.86	直	該当
恩田ふれあいセンター	恩田	昭和53年度	41年	R C	済	未	803.87	直	該当
岬ふれあいセンター	岬	昭和49年度	45年	S	未	未	929.55	直	該当
見初ふれあいセンター	見初	昭和50年度	44年	S	済	未	685.00	直	該当
上宇部ふれあいセンター	上宇部	昭和48年度	46年	R C	済	済	1,292.74	直	該当
神原ふれあいセンター	神原	平成12年度	19年	R C	不要	不要	712.82	直	該当
琴芝ふれあいセンター	琴芝	昭和52年度	42年	R C	済	未	692.57	直	該当
新川ふれあいセンター	新川	昭和51年度	43年	R C	済	未	665.46	直	該当
鵜の島ふれあいセンター	鵜の島	昭和53年度	41年	R C	済	未	636.42	直	該当
藤山ふれあいセンター	藤山	平成6年度	25年	R C	不要	不要	672.87	直	該当
原ふれあいセンター	原	昭和50年度	44年	R C	済	不要	813.44	直	該当
厚東ふれあいセンター	厚東	昭和56年度	38年	R C	不要	不要	1,000.30	直	該当
二俣瀬ふれあいセンター	二俣瀬	昭和58年度	36年	R C	不要	不要	1,037.64	直	該当
小野ふれあいセンター	小野	昭和60年度	34年	R C	不要	不要	1,020.42	直	該当
小羽山ふれあいセンター	小羽山	昭和55年度	39年	R C	済	未	676.76	直	該当
常盤ふれあいセンター	常盤	昭和59年度	35年	R C	不要	不要	766.56	直	該当
川上ふれあいセンター	川上	平成2年度	29年	R C	不要	不要	674.41	直	該当
厚南ふれあいセンター	厚南	昭和54年度	40年	R C	済	未	1,500.52	直	該当
西宇部ふれあいセンター	西宇部	平成10年度	21年	R C	不要	不要	718.72	直	該当
黒石ふれあいセンター	黒石	平成10年度	21年	R C	不要	不要	702.41	直	該当

施設名称	地区	建築年度	築年数	構造	耐震化		延床面積	運営	防災施設
					診断	改修			
船木ふれあいセンター	船木	昭和49年度	45年	R C	済	済	1,227.66	直	該当
万倉ふれあいセンター	万倉	平成11年度	20年	R C	不要	不要	1,011.29	直	該当
吉部ふれあいセンター	吉部	平成9年度	22年	R C	不要	不要	809.81	直	該当
アクトビレッジおの	小野	平成18年度	13年	S	不要	不要	2,570.24	指	該当

※RC・・・鉄筋コンクリート造、S・・・鉄骨造、CB・・・コンクリートブロック造、W・・・木造

【備考】

- 建築年度、築年数、構造、耐震化は、主たる建物の状況を記載しています。
- 耐震化について、昭和57年以降の建築物（新耐震基準）、耐震診断により新耐震基準を満たしていることが判明した建築物は、「不要」と記載しています。
- 運営について、直営は「直」、指定管理は「指」、委託（指定管理を除く。）は「委」と記載しています。
- 防災施設について、災害時に避難所、緊急避難場所、防災拠点として使用される施設は、「該当」と記載しています。
- 上宇部ふれあいセンター、厚南ふれあいセンターは、隣保館を間借りしている施設のため、延床面積は福祉施設に含み、今後の方向性等は、福祉施設に掲載しています。

## 施設評価及び今後の方向性

担当課	1次評価（定量評価）					2次評価（定性評価）					
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	C	B	3点	0点					
評価結果の分析					評価結果の分析						
東岐波 ふれあいセンター	築40年で、耐震性能判定値は基準内であるが部分的な補強について提案を受けている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較してやや増加している。維持管理費は他施設と比較して高い。					地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。市民センターが併設されており、利便性の面から現在の施設を活用する。					
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性					建物の方向性					
	現状維持					長寿命化改修					
	スケジュール										
											対策費（千円）
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	158,902
	説 明										
昭和54年度に建設され、築後40年が経過する耐震性のある施設である。令和元年度に実施した耐震診断の結果、耐震性能判定値は基準内と認められたが、非構造部材について改修を要するとの指摘があったことから、概ね築45年を経過する時期を目途に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、耐震補強、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）					2次評価（定性評価）					
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	A	B	B	3点	0点					
評価結果の分析					評価結果の分析						
西岐波 ふれあいセンター	築42年で、耐震性能判定値は基準内であるが部分的な補強について提案を受けている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較して減少している。維持管理費は他施設と比較して低い。					地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。市民センターが併設されており、利便性の面から現在の施設を活用する。					
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性					建物の方向性					
	現状維持					長寿命化改修					
	スケジュール										
											対策費（千円）
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	146,828
	説 明										
昭和52年度に建設され、築後42年が経過する耐震性のある施設である。平成30年度に実施した耐震診断の結果、耐震性能判定値は基準内と認められたが、非構造部材について改修を要するとの指摘があった。令和2年度に老朽化したエアコンの改修工事が完了する。 概ね築45年を経過する時期を目途に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、耐震補強、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	A	B	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
恩田 ふれあいセンター	築41年で、耐震性なしと診断されており、耐震補強工事を要する。災害時の避難所に指定されている。 利用者数は過去平均と比較してやや増えている。維持管理費は他施設と比較して高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。現在の立地、利便性、近隣公共施設の敷地状況等から、既存施設の活用を基本とする。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				耐震化、長寿命化改修						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 134,507
説明											
昭和53年度に建設され、築後41年が経過する耐震性のない施設である。 概ね築45年を経過する時期を目途に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、耐震化、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	C	C	C	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
岬 ふれあいセンター	築45年で、耐震性のない施設である。災害時の避難所に指定されている。 利用者数は過去平均と比較し減少している。維持管理費は他施設と比較して少ないが、利用者1人当たりの市負担額がかなり高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。現在建設中の複合化施設の竣工後、機能移転する予定である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	複合化				売却						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 309,691
説明											
昭和49年度に建設され、築後45年が経過する耐震性のない施設である。 令和3年度に岬小学校体育館との複合施設に移転することとしている。 移転後の跡地等は、建物付で売却を検討する。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	C	C	3点	1点					
見初 ふれあいセンター	評価結果の分析				評価結果の分析						
	築44年で、耐震性なしと診断され、耐震補強工事には建て替えと同程度の費用を要する。災害時の避難所に指定されている。維持管理費は他施設と比較して高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。既存施設の長寿命化には多額の経費を要する。近隣の公共施設の整備に合わせて、機能移転を検討する。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	機能移転				売却						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	258,514
説明											
昭和50年度に建設され、築後44年が経過する耐震性のない施設である。耐震補強工事には多額の費用を要するため、近隣の学校敷地内に機能移転を検討する。移転後の跡地等は、建物付で売却を検討する。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	B	C	C	A	3点	0点					
神原 ふれあいセンター	評価結果の分析				評価結果の分析						
	築19年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較して減っているが、遊休設備・空き部屋はなく、有効に活用されている。維持管理費は他施設と比較して高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	33,000
説明											
平成12年度に建設され、築後19年が経過する耐震性のある施設である。令和元年生産終了となった「R22冷媒」を使用したエアコンの改修工事を先行して実施する必要がある。概ね築45年を経過する時期までは日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	C	C	C	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
琴芝 ふれあいセンター	築42年で、耐震性がなく耐震補強工事は高額の見込みである。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較して減少している。維持管理費は他施設と比較して少ないが、利用者1人当たりの市負担額が高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。既存施設の長寿命化には多額の経費を要する。現在の立地、利便性、近隣公共施設の敷地状況等から、機能移転を検討する。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	機能移転				売却						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	261,371
説明											
昭和52年度に建設され、築後42年が経過する耐震性のない施設である。耐震補強工事には多額の費用を要する見込みであることから、近隣の学校敷地内に機能移転することを検討していく。				移転後の跡地等は、建物付で売却を検討する。							

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	C	A	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
新川 ふれあいセンター	築43年で、耐震性がなく耐震補強工事は高額の見込みである。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較してやや減少している。維持管理費は他施設と比較して少ないが、利用者1人当たりの市負担額が高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。既存施設の長寿命化には多額の経費を要する。現在の立地、利便性、近隣公共施設の敷地状況、跡地の利活用の可能性等から、機能移転を検討する。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	機能移転				解体						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	251,140
説明											
昭和51年度に建設され、築後43年が経過する耐震性のない施設である。耐震補強工事には多額の費用を要する見込みであることから、近隣の学校敷地内に機能移転することを検討していく。				移転後の跡地等は、建物を解体する。							

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	B	C	3点	1点					
鶴の島 ふれあいセンター	評価結果の分析				評価結果の分析						
	築41年で、耐震性がなく耐震補強工事は高額の見込みである。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較し大幅に増えている。維持管理費は他施設と比較して高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。既存施設の長寿命化には多額の経費を要する。現在の立地、利便性、近隣公共施設の敷地状況等から、機能移転を検討する。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	機能移転				売却						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	80,061
	説明										
	昭和53年度に建設された築後41年が経過する耐震性のない施設である。耐震補強工事には多額の費用を要する見込みであることから、近隣の学校敷地内に機能移転することを検討していく。 移転後の跡地等は、建物付で売却を検討する。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	C	C	A	3点	0点					
藤山 ふれあいセンター	評価結果の分析				評価結果の分析						
	築25年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較して減少している。維持管理費は他施設と比較して高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	8,300
	説明										
	平成6年度に建設された築後25年が経過する耐震性のある施設である。 令和2年度に老朽化したエアコンの改修工事が完了する。 概ね築45年を経過する時期までは日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	B	A	C	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
原 ふれあいセンター	築44年で、耐震性能判定値は基準内であるが部分的な補強について提案を受けている。災害時の避難所に指定されている。維持管理費は他施設と比較して若干高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。市民センターが併設されており、利便性の面から現在の施設を活用する。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	140,497
	説明										
昭和50年度に建設された築後44年が経過する耐震性のある施設である。平成29年度に実施した耐震診断において、耐震性能判定値は基準内と認められたが、部分的な補強工事を要するとの指摘があった。 概ね築45年を経過する時期を目的に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、耐震補強、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	B	C	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
厚東 ふれあいセンター	築38年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較すると大幅に増えている。維持管理費は他施設と比較して高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。市民センターが併設されており、利便性の面から現在の施設を活用する。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	158,902
	説明										
昭和56年度に建設された築後38年が経過する耐震性のある施設である。 概ね築45年を経過する時期を目的に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、長寿命化改修を行う。											



担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	C	C	C	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
二俣瀬 ふれあいセンター	築36年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較してやや減少している。維持管理費は他施設と比較して高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。市民センターが併設されており、利便性の面から現在の施設を活用する。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	110,268
	説明										
昭和58年度に建設された築後36年が経過する耐震性のある施設である。老朽化した受変電施設の改修を先行して実施する必要がある。概ね築45年を経過する時期を目的に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	C	C	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
小野 ふれあいセンター	築34年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較してやや減少している。維持管理費は他施設と比較して高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。市民センターが併設されており、利便性の面から現在の施設を活用する。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
昭和60年度に建設された築後34年が経過する耐震性のある施設である。日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	C	C	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
小羽山 ふれあいセンター	築39年で、耐震性なしと診断されており、耐震補強工事を要する。災害時の避難所に指定されている。 維持管理費は他施設と比較して高く、利用者1人当たりの市負担額が高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。現在の立地、利便性、近隣公共施設の敷地状況等から、既存施設の活用を基本とする。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				耐震化、長寿命化改修						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 94,580
説明											
昭和55年度に建設された築後39年が経過する耐震性のない施設である。 令和元年生産終了となった「R22冷媒」を使用したエアコンの改修工事を先行して実施する必要がある。 概ね築45年を経過する時期を目途に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、耐震化、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	C	C	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
常盤 ふれあいセンター	築35年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。 利用者数は過去平均と比較して大きく減少している。維持管理費は他施設と比較して高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。現在の立地、利便性、近隣公共施設の敷地状況等から、既存施設の活用を基本とする。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 33,606
説明											
昭和59年度に建設された築後35年が経過する耐震性のある施設である。 概ね築45年を経過する時期を目途に、施設の劣化状況等を総合的に判断し、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	C	C	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
川上 ふれあいセンター	築29年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較して大きく減少している。維持管理費は他施設と比較して高く、利用者1人当たりの市負担額が高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
平成2年度に建設された築後29年が経過する耐震性のある施設である。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	C	C	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
西宇部 ふれあいセンター	築21年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較してやや減少している。維持管理費は他施設と比較して高く、利用者1人当たりの市負担額が高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	33,000
	説明										
平成10年度に建設された築後21年が経過する耐震性のある施設である。 令和元年生産終了となった「R22冷媒」を使用したエアコンの改修工事を先行して実施する必要がある。 概ね築45年を経過する時期までは、日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	A	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
黒石 ふれあいセンター	築21年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較してやや増加している。維持管理費は他施設と比較して高く、利用者1人当たりの市負担額が高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	33,000
説明											
平成10年度に建設された築後21年が経過する耐震性のある施設である。令和元年生産終了となった「R22冷媒」を使用したエアコンの改修工事を先行して実施する必要がある。概ね築45年を経過する時期までは日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	B	C	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
船木 ふれあいセンター	築45年で、平成27年度に耐震補強工事を実施したが、施設の老朽化が進行している。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較しやや増加している。維持管理経費は他施設と比較して高く、利用者1人当たりの市負担額が高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	212,041
説明											
昭和49年度に建設され築後45年が経過しているが、平成27年度に実施した耐震補強工事により耐震性は確保されている。施設の劣化状況等を総合的に判断し、長寿命化改修を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	A	C	C	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
万倉 ふれあいセンター	築20年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用者数は過去平均と比較してやや増加している。維持管理費は他施設と比較して高く、利用者1人当たりの市負担額が高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	62,373
	説明										
平成11年度に建設された築後20年が経過する耐震性のある施設である。老朽化したエアコンの改修工事を先行して実施する必要がある。概ね築45年を経過する時期までは日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
市民活動課	C	C	C	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
吉部 ふれあいセンター	築22年で、新耐震基準を満たしている。災害時の避難所に指定されている。利用状況に関する評価が低いのは、H28利用者数の突出による平均値の上振れなどが要因である。維持管理費は他施設と比較して高く、利用者1人当たりの市負担額が高い。				地域活動の拠点であり、災害時には避難場所としても機能する重要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
平成9年度に建設された築後22年が経過する耐震性のある施設である。日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）					2次評価（定性評価）					
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価		施策上等の必要性	代替の可能性				
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)	建物性能							
市民活動課	A	A	A	B		1点	0点				
	評価結果の分析					評価結果の分析					
アクトビレッジおの	<p>築13年で、新耐震基準を満たしている。環境学習体験、レクリエーション等で利用されており、災害時には避難所に指定されている。利用者数は過去3か年平均と比較すると大幅に増えており、指定管理者制度による取組により、さらなる経費効率化を図る。</p>					<p>環境、スポーツ、レクリエーションを基本コンセプトに環境教育、北部地域の交流の拠点として設置された。指定管理者による施設管理が行われており、民間を活用したさらなる機能の充実と有効活用を図る。</p>					
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性					建物の方向性					
	現状維持					長寿命化改修					
	スケジュール										対策費（千円）
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	80,819
	説明										
	<p>利用状況から環境学習体験施設としての有効性が認められる。</p> <p>平成18年度に建設された築後13年が経過する耐震性のある施設である。</p> <p>木造の建物については概ね築17年経過する時期を目途に施設の劣化状況等を総合的に判断し長寿命化改修を行い、その他の建物は概ね築45年を経過する時期までは日常的補修を適宜実施し現状を維持していく。</p>										